

授業科目 音声学

【担当教員名】 大石 如果		対象学年	1	対象学科	言語
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎					
【概要・一般目標：G10】 言語聴覚士として必要な音声学の知識を習得する。					
【学習目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 音声学とはどのような分野かを理解する。 調音の場所や方法について記述する。 第1次、第2次基本母音を理解する。 日本語の分節的側面（母音、子音）について理解する。 日本語の超分節的側面（アクセントなど）について述べる。 音韻論と音素論 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	音声と音声学、調音器官の構造と働き			1, 2	
2	単音とその算出, 子音の分類方法			2, 4	
3	母音の分類方法 (第1次基本母音)			2, 3	
4	母音の分類方法 (第2次基本母音)			2, 3	
5	母音におけるさまざまな特徴			2, 4	
6	IPAにおける肺臓気流子音 1			2, 4	
7	IPAにおける肺臓気流子音 2			2, 4	
8	子音におけるさまざまな特徴と, 喉頭・軟口蓋気流子音			2, 4	
9	音節とモーラ			5	
10	日本語のサウンドスペクトログラム 1 (母音の特徴)			4	
11	日本語のサウンドスペクトログラム 2 (子音の特徴)			4	
12	日本語の超分節的側面側面 1 (アクセント、イントネーション、リズム)			5	
13	日本語の超分節的側面側面 2 (ポーズ、速さ、強調)			5	
14	音素と音素論			6	
15	まとめ			1 ~ 6	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		日本語音声学入門【改訂版】	齋藤純男	三省堂	2007・2,000円＋税
参考書		言語聴覚士のため基礎知識 音声学・言語学	編集 今泉 敏	医学書院	2009・3,800円＋税
その他の資料					
【評価方法】 成績は原則として定期試験の点数をもって評価する。		【履修上の留意点】 インターネット上の IPA モジュールを参照することを勧める。			